

第一問

次の本文を読んで、以下の設問に答えなさい。

彼らのエネルギーの ⑦ ゲンセンとなつたのは、失われたユートピアへの熱い思いだったように思われる。そのユートピアは二つの面をもっていた。一つは彼らが過ごした牧歌的な幼年時代、いま一つは古き良きドイツである。この二つが重なりあつて、グリム兄弟の「夢」を形成していた。

十代の初めで父親を失つたことが、彼ら兄弟の一生を決定づけたようだ。父親の突然の死によつて、一家は貧困のどん底に投げ込まれ、同時にそれまでの社会的地位を失つた。そのために兄弟はさんざん苦勞して学業をおさめなければならなかつた。二人が類たぐひまれなほど仲がよかつたのも、父親も家族も故郷も失つたことにたいする一種の A 用だつたのかもしれない。

グリム兄弟が理想としてつねに心に思い描いていたのは、あたたかい家庭の一家団だんらん樂であつた。ただしそれは、たんに彼らが早く父親をなくしたからだけではなく、時代の影響もあつた。グリム兄弟が生きた時代は、「ビーダーマイヤー」時代と呼ばれる、現代と同じような家族ができあがりつつあつた時代であり、家庭での団樂が尊重されるようになってきた時代だつたのである。

グリム兄弟が憧れたもう一つのユートピアは古き良きドイツ、いかえればドイツ民族の統一であつた。

一九九〇年には、東西ドイツの統一が世界中の注目を集めた。現在もなお、統一ドイツの将来が世界中の人びとの関心を惹ひいているが、ドイツの歴史をふりかえつてみると、統一国家が存在したのはごく最近の短期間にすぎない。グリム兄弟が生きた時代も、「ドイツ」という統一国家はなかつた。十九世紀の初めまで、一千年もの長きにわたつて「神聖

ローマ帝国」なるものが存在したことになるが、三十年戦争を終結させたウエストファリア条約（一六四八年）以後、^①この帝国はいわば亡霊のようなものになり、実際には三百以上の小さな領邦国家が群立していた。この状態はグリム兄弟の時代までそのまま続いていた。

そして一八〇六年にはドイツ全土がナポレオンの軍隊に占領された。若きグリム兄弟にとって、これはなんとも悲劇的・屈辱的な出来事だった。彼らだけでなく、多くの人びとが、「群小国家に分裂しているから、こんなみじめなことになったのだ」と考えた。ウィーン会議によってドイツ連邦が成立するが、ドイツ全土が統一されるのはまだずっと先のことだ。

グリム兄弟は、師サヴィニーの影響もあつて、ドイツ民族を統一するものは B だという確信を抱くようになった。それで彼らは、他のロマン主義者たちと同じく、中世文化の発掘に専心した。童話集を含め、グリム兄弟の学問的活動のすべては、ドイツ民族の統一に貢献したいという熱情によつて支えられていたといつてもいいだろう。

『グリム童話集』が初めて世に出たのは一八一二年のことだ。十八世紀後半から十九世紀にかけての時期は、ドイツ文化の一つの絶頂期であつた。文学でいえば ^②ゲーテ、シラー、哲学でいえばカント、フイヒテ、音楽でいえばモーツァルト、ハイドン、ベートーヴェンの時代である。だが、その少し前まで、ドイツの文化はヨーロッパの他の国と比べてはるかに貧弱だった。それは国が何百もの群小国家に分裂していたせいでもあろうし、三十年戦争によつて国土がすっかり荒廃してしまつたせいでもあろう。

いずれにせよ、この文化的隆盛期を迎える直前のドイツの知識人は、「わが国の文化は遅れている」という民族的・文化的劣等感に悩まされていた。この劣等感文化の隆盛を迎えてからも簡単には消え去らず、グリム兄弟もこの劣等感

を抱えていた。

一七六〇年代末から八〇年代にかけて起こった、ヘルダーを指導者とし、若きゲーテを中心とした「シュトゥルム・ウント・ドラング」運動も、十九世紀前半に主流だった、理性と^①チツジヨを讃える新古典主義を排撃し、情熱・空想・個性を讃え、ドイツ独特の文化の創出を目標に掲げた。だが、フランス革命の生の現実に接するにつれ、革命的な方向性は急速に後景に退き、ゲーテ、シラーらは、Cを超越した、より広い人間性の探究へと向かい、擬古典主義を確立した。

だが同時に、シュトゥルム・ウント・ドラングよりも過激なナショナリズム的傾向をもったロマン主義が勃興し、擬古典主義と共存することになった。国がナポレオンに占領されたために、ドイツ・ロマン派はドイツの国家体制の転覆へとは向かわず、民族意識の高揚をめざした。この民族意識・愛国精神が最大の動因となつて、ゲルマン民族の歴史、神話、伝説、民話、民謡、ドイツ語などにたいする関心が高まった。『グリム童話集』も、そうした民族意識から生まれたのである。

(鈴木晶『グリム童話——メルヘンの深層』より一部改変)

問1 波線部②「ゲンセン」の「セン」と同じ漢字を用いるものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① セン^{~~~~~}門家による考察 ② 難しいセン^{~~~~~}択を迫られる
- ④ 服をセン^{~~~~~}濯する ⑤ 温セン^{~~~~~}が湧き出る
- ③ ウイルスのセン^{~~~~~}伏期間

問2 波線部①「チツジョ」の「ジョ」と同じ漢字を用いるものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 選択肢からジョ外する
- ② 安全のためジョ行する
- ③ 資金を援ジョする
- ④ ジョ章を読み終わる
- ⑤ 想像力が欠ジョしている

問3 空欄

A

に入るものとして最もふさわしいものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 自浄
- ② 遠隔
- ③ 補償
- ④ 堆積
- ⑤ 相乗

問4 傍線①「この帝国はいわば亡霊のようなものになり」とあるが、ここの「亡霊」の意味として最もふさわしいものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 亡くなった者の志を引き継いだもの。
- ② ふいに幻想的なものとして現れたもの。
- ③ 人々の記憶から忘れさられてしまったもの。
- ④ 存在していることにはなっているが、実質的にはないもの。
- ⑤ 過去の栄華によって人々から恐れられているもの。

問5

空欄

B

に入るものとして最もふさわしいものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 団結力
- ② 軍事力
- ③ 言語文化
- ④ 政治思想
- ⑤ 指導者

問6

傍線部②

「ゲーテ」について、ゲーテの名著『ファウスト』を日本語に翻訳した人物は誰か。ドイツに留学し、

『高瀬舟』などの作品もあるその人物の名を次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 夏目漱石
- ② 森鷗外
- ③ 島崎藤村
- ④ 与謝野晶子
- ⑤ 福沢諭吉

問7

空欄

C

に入るものとして最もふさわしいものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 民族性
- ② 芸術
- ③ 幻想
- ④ 現実
- ⑤ 哲学

問8

本文の内容として最もふさわしいものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① グリム兄弟にとって、幼年時代の過酷な経験こそ追い求めるべきユートピアであった。
- ② ドイツ民族の統一に貢献するために、グリム兄弟は『グリム童話集』を編纂した。
- ③ ドイツはナポレオンに支配されてから、数多くの群小国家に分裂していった。
- ④ グリム兄弟の時代、ドイツは国家的には分裂していたが、文化的には優越感に浸っていた。
- ⑤ ロマン主義が勃興したフランス・ドイツでは、国民の総意のもと革命へと向かっていった。

第二問

次の本文を読んで、以下の設問に答えなさい。

戦後には経済の発展が人々を豊かにしていくというイメージが私たちを包んでいた。しかし現在ではこのイメージは遠くに逃げはじめている。経済を発展させようとして低賃金で雇い、解雇が容易な非正規雇用の人々をふやしてきたのがいまの日本である。実際この二十年間に日本の平均賃金は大きく低下している。

さらに「豊かさ」の意味も遠くに逃げていった。高度成長期には、その時代に三種の神器といわれたものをそろえ、家を購入し、子どもを大学に進学させるのが豊かさだった。豊かさは確かなイメージをつくりだしていたのである。だがそんな豊かさのイメージもいまでは逃げ去っている。だから私たちは豊かさとは何かと迷い、さまざまな模索をつづけている。ある人は自然とともにある生のなかに豊かさをみつけ、またある人は農のある暮らしのなかに豊かさをみいだす。あるいはある人はコミュニティや結び合う関係のなかに豊かさをみいだし、またある人は趣味的な世界のなかに豊かさをみいだす。

① それぞれが、それぞれの豊かさのイメージをみいだそうとしているのであり、社会化され、共有化された豊かさのイメージは消え去っている。とするなら A された戦後の豊かさのイメージは、すでに逃げ去っていることになる。

「自分のために生きなければ損だ」というイメージも私たちの前から去りはじめた。いま人々が気づきはじめているのは、「自分のために生きる」ことが「自分のために」ならないということだ。 B 他者とともに生きる、他者のために生きる方が、最終的には自分のためにもなると考える人々が、いまふえはじめている。

科学の発達がいろいろな課題を解決するというイメージも、遠くに逃げ去りはじめた。原発は私たちに重い荷物を背

負わせているし、科学技術がもたらす便利さに私たちは振り回されている。それはレコードとCDの関係のようなもので、CDは便利さをもたらしたが音の味わいは C 低下した。インターネットはさまざまな便利さを与えたが、調べながら考えることを検索に変え、コミュニケーションを連絡に変えてしまった。SNS（ソーシャル・ネットワークキング・サービス）の登場でグループ内での会話ができるようになったといっても、それは自分の意見を連絡し合っているだけなのである。

はつきりしているのは、戦後がつくり上げたイメージと、私たちの「幸せ」のイメージが結びつかなくなったということだ。そればかりか幸せというイメージも遠くに逃げ去ろうとしている。崩壊してしまったわけではない。どこかにあるような気がするのだ。しかしそれをつかみとることができない。

そんな感覚が広がるなかで、戦後は死を迎えようとしている。

戦後の死とともに、近現代というひとつの時代もまた死を迎えようとしている。 D 戦後の死は「人々」の時代の終焉であり、「人々」をつくりだした時代こそが近現代であったからである。

近代とはどのような社会なのか。この問いに対して私たちはさまざまな視点から答えることができる。経済的には資本主義の時代として形成された。社会の基本的なかたちは、共同体社会から市民社会へと移行している。国家は国民国家というかたちをとるようになった。とともにそれは個人の時代であり、個人を基調にした社会原理や政治原理がつけられていった時代である。一七八九年のフランス革命では自由、平等、友愛が宣言され、政治的には民主主義と代議制度が確立されていった時代であった。科学が著しく進歩し、非科学的なことを人々が ⑦メイシンとして退けた時代でも

あつた。この時代を私は「人々の誕生」という視点から考察してみようと思う。

そういう問題意識をもつのは、私が群馬県の山村、上野村に生活の場をもつ人間だからかもしれない。上野村は村の面積の九六パーセントを森林や自然がしめる人口千四百人ほどの村である。村に水田はなく、昔は養蚕が主要な産業だった。私がこの村をはじめて訪れたのは四十年余り前のことである。

村で暮らすようになって気づいたことのひとつは、上野村には「人々」が存在しないということだった。

E 会

話のなかでは村人は「村民の立場としては……」と言うことはある。この「村民」は集合名詞ではあるが、用いられるときは「村民である私の意見としては」とか「村民であるAさんやBさんの立場としては」という意味であつて、名前のわからない人々の集団をさしているわけではない。^② この村にはAさんやBさんが存在しているのであつて、人々は存在していない。

だから上野村には高齢者問題も存在しない。上野村は高齢化率が約四〇パーセントの村である。一人暮らしの高齢者もたくさんいるし、何らかの支援を必要としている高齢者もいる。しかし、高齢者問題は存在しない。なぜならそれは、Aさんの問題やBさんの問題だからだ。

たとえば一人暮らしのAさんが腰を痛めて満足に動けなくなったとしよう。当然村も集落の人たちも、Aさんをどう支援したらよいかを考える。もしも二十四時間介護が必要だったら、村の介護施設に移すだろう。だがお手洗ぐらいには何とか自力で行けるくらいだったら、集落の人たちが食事などの世話をし、村のデイサービスセンターの人が入浴サービスを受けもつことになるだろう。長引くようなら食事も村の給食センターから弁当を届け、集落の人たちは食事以外の部分を受けもつようになるかもしれない。

支援の方法はAさんがもっている条件によって変わる。もしもしばらく子どもが帰ってきて①メンドウをみるというのなら、子どもの負担を軽くするための支援がおこなわれるだろう。Aさんが山の中の一軒家の住人であったなら、そのことに対応した支援が必要になる。おこなおうとしていることはAさんに対する支援であり、それはAさんと同じ条件下にある若い世代のBさんが同じ状況に陥ったとしても変わりない。もちろん介護保険を使えるのか使えないのかといったことによつて、事務上の手続きは変わるだろうが、Aさんに対してであれBさんに対してであれ、おこなおうとしていることに変わりがあるわけではない。それはAさん問題であり、Bさん問題なのである。

③ 高齢者問題とは、高齢者という「人々」が生み出す問題である。あるいはさまざまな高齢者を、高齢者という「人々」としてとらえて語られるのが、高齢者問題である。だからそれはたいいてい数字で語られる。要介護者が〇〇万人とか、認知症を患っている人が〇〇万人とかである。国家や都道府県、大きな市などが高齢者について語るときは、これしか手がない。こうして数量でひとまとめにされた高齢者問題が発生する。

上野村ではその必要性がないのである。ここでは人口千四百人という規模が有利に働いている。村長も村役場の人たちも、村人全員の顔と名前を知つていて、Aさんが最近体調を悪くして少し大変になっている、というようなかたちでしか問題は発生しない。それは高齢者問題ではなくAさん問題である。Aさん問題である以上、Aさんの暮らす環境——同居する家族はいるのか、その家族は元気なのか、Aさんのいる集落はどういう状況なのか、子どもはしばしば見舞いにこられるのかこられないのか、Aさんは何を望んでいるのか、などなど——を考えて対策をすればよい。ここでは一人一人にあった、一人一人に寄り添う対策ができるから、高齢者を数量でとらえるような対策は必要ではない。

高齢者という「人々」が存在しないように、上野村には「人々」は存在しないのである。もちろん村外の「人々」は

存在する。東京の「人々」も存在するし、村を訪れる観光客という「人々」も存在する。しかし村のなかには「人々」は存在しない。いるのはAさんやBさんやCさんや……、だけである。

(内山節『新・幸福論——「近現代」の次に来るもの』より一部改変)

問1 波線部⑦「メイシン」の「メイ」と同じ漢字を含む語を次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① コウメイ正大な判断に救われた。
- ② 昨日付けで課長職をハイメイした。
- ③ オメイ返上とばかりに孤軍奮闘する。
- ④ 捜査は行き詰まり、コンメイを極めた
- ⑤ ある哲学者の言葉にカンメイを受けた。

問2 波線部①「メンドウ」にあてる漢字のうち一字を含む語を次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 保険料がゲンメンされる制度を利用する。
- ② 相手の言葉をガクメン通りに受け取る。
- ③ 政府シュドウの経済改革が実行される。
- ④ 牙をむく、ドウモウな野獣に囲まれる。
- ⑤ 工場のカドウ率を上げて生産量を増やす。

問3

傍線部①「それぞれが、それぞれの豊かさのイメージをみいだそうとしているのであり、社会化され、共有化された豊かさのイメージは消え去っている」の説明として、最もふさわしいものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 高度成長期には、科学技術の進展に伴って日本社会は諸外国に比べて経済的に発展し、物質的にも精神的にも豊かになったという意識が人々の間で共有されたが、経済優先の風潮が高齢者問題などの社会問題を生み出し、そうした問題が人々の抱く豊かさのイメージを崩してしまっているということ。
- ② 高度成長期には、日本社会の経済的発展に伴って、物質的にも精神的にも豊かな生活を実現していききたいという意識が共有されていたが、時代や社会の変化とともにそのような意識は薄れ、現在では個々に異なる豊かさを自らの価値観などに基づいて見出していかななくてはならなくなったということ。
- ③ 高度成長期には、だれもが豊かさを求めて日々の生活に励んでいたため、豊かさのイメージが日本社会において共有されていたと言えるが、経済的な発展に伴って都市と農村で生活水準が異なるようになり、現在では地域の実態に応じて生活上の豊かさを見出していく取り組みがなされているということ。
- ④ 高度成長期には、日本社会の経済的発展と生活水準の向上による豊かさの実現を期して、低賃金や非正規での雇用が行われてきたが、結果として平均賃金の低下を招いて豊かな生活が実感できなくなってしまうため、現在ではもはや社会で共有される豊かさのイメージはなくなってしまうということ。
- ⑤ 高度成長期には、特定の製品を所有して生活水準を向上させることが豊かさにつながると考えられていたが、科学技術の発展に伴って日本社会では物質的な豊かさが実現され、人々はもはや豊かさを求めて生活しなくなつたが、そのことがかえって人々に豊かさの意味を考えさせる結果になったということ。

問4 空欄

A

に入る言葉として、最もふさわしいものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 神話化
- ② 分節化
- ③ 可視化
- ④ 平等化
- ⑤ 多元化

問5 空欄

B

く

E

に入る言葉の組み合わせとして、最もふさわしいものを次の中から一つ選び、その

番号をマークしなさい。

- ① B なぜなら | C やはり | D もちろん | E おそらく
- ② B 確かに | C もちろん | D むしろ | E なぜなら
- ③ B もちろん | C むしろ | D そもそも | E 確かに
- ④ B あたかも | C すっかり | D 確かに | E むしろ
- ⑤ B むしろ | C 確かに | D なぜなら | E もちろん

問6

傍線部②「この村にはAさんやBさんが存在しているのであって、人々は存在していない」の説明として、最もふさわしいものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 上野村では、村内の居住者の問題がプライバシーに配慮されつつ把握されており、村民全体で共有して解決しようとはしていないということ。
- ② 上野村では、村内の居住者の一人一人が村の構成員として認定されており、数量化した形で村の全体像を把握しようとはしていないということ。
- ③ 上野村では、村内の居住者の氏名や情報は互いに把握されており、情報管理の観点から一括され、記号化して把握されるようなことはないということ。
- ④ 上野村では、村内の居住者が個々の状況を踏まえて把握されており、特定の観点から一括りにされ、抽象的に把握されるようなことはないということ。
- ⑤ 上野村では、村内の居住者が個々の抱える問題とともに把握されており、個別の問題を超えて村全体の問題として課題を見出しではないということ。

問7

傍線部③「高齢者問題とは、高齢者という「人々」が生み出す問題である」の説明として、最もふさわしいものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 一部の高齢者の生活上の問題を焦点化して社会問題と考えることで、高齢者問題の本質が見えにくくなり、問題の解決を難しくしているということ。
- ② 増加傾向にある高齢者の割合を数値で把握することで、日本社会における高齢者問題の深刻さを浮き彫りにし、問題の解決が難しいと感じさせること。
- ③ 高齢者が抱える生活上の問題を高齢者自身に起因する問題と考えることで、社会問題としての意識が希薄になり、問題の解決を難しくしているということ。
- ④ 生活に支援が必要な高齢者を一括して数量的に把握することで、農村に比べて都市の高齢者問題の深刻さが際立ち、問題の解決を難しくしているということ。
- ⑤ 何かしらの問題を抱える高齢者を一括りにして数値で把握することで、個々の高齢者が抱える問題を捨象してしまい、問題の解決を難しくしているということ。

問8 本文の内容と一致するものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 科学技術の発達は私たちの生活を格段に便利なものとしたが、これまでに存在しなかった新たな社会問題を生み出す結果となり、戦後の日本人に連綿と受け継がれてきた「幸せ」のイメージを消失させている。
- ② 筆者が居住する群馬県上野村は、村の面積の大半を森林が占めるくらい山深い地域にあるため、村外居住者や村を訪れる観光客は見られず、村民全員が互いの顔と名前、個々が抱える事情をよく把握している。
- ③ 戦後の日本社会は効率化の名目のもとに数量的に物事を把握することが求められ、時代の流れとともに群馬県上野村でも村民がデータで管理されることとなり、「村民」から「人々」へと変貌を遂げている。
- ④ 群馬県の山村、上野村にも支援が必要な高齢者はいるが、個々の高齢者の事情を踏まえて支援の方法が考えられているため、支援が必要な高齢者として一括して把握され、画一的な支援を受けるようなことはない。
- ⑤ 戦後の高度経済成長を経て、日本人は経済的にも物質的にも豊かになったが、私たちの現在の生活は必ずしも豊かであるとは言い切れず、自らを犠牲にして他者のために生きることを選択する人が増えてきている。

第三問

次の本文を読んで、以下の設問に答えなさい。

効率を重視する心性、速度の向上を喜ぶ心性、便利であることを人間的にゆたかであることと思う心性、みずから競争の場を設定しその場で少しでも人に先んじようとする心性、競争に勝つためなら過剰の緊張と労苦にも耐えていこうとする心性、——わたしたちの日常に広がるそうした心性は、進歩をよしとする近代の社会意識から派生したものだ。

そうした心性は、しかし、人びとを幸福へと導くものではない。それどころか、そうした心性が他をさしおいて一方的に昂揚こうようし、個人の世界を、あるいは集団の場を広く支配するようになると、幸福とは背反する方向へと人びとを導きかねない。なぜか。

幸福が穏やかさ、安らかさ、ゆるやかさを基調とすることはわたしたちがくりかえし確認してきたところだ。進歩主義につきまとう効率・迅速を尊ぶ心性や、

A

がゆえの、競争、緊張、労苦、忍耐は、幸福の基調たる平穏さとうまく折り合うものではなく、むしろ平穏さを乱し、安らかさを壊す可能性の大きい心の動きだからだ。実際、個人が、あるいは集団が、効率のよさをめざし、競争に勝つべく必死に努力と忍耐を重ねているとき、当の個人ないし集団が穏やかでゆるやかな幸福の境地にあるとは思えないし、努力と忍耐のそのむこうに幸福が遠望されているとしても、

B

、望まれる幸福もゆるやかな平穏さにそぐわぬ熱を帯びてしまう。熱を帯びた幸福や幸福への願いは、幸福の本性にそぐわない。

近代世界の発展のなかで、日々の暮らしとともにある地味でひかえ目な幸福が外からの政治的・経済的・文化的な力によって揺さぶられ、それと並行して、進歩につきものの努力と緊張と忍耐にこそ生の充実を感じる心性が、幸福の基

調をなす、ゆつたりとした穏やかな心境を

C

、――それがわたしたちの幸福論を取り巻く現況だといえようか。

幸福を揺るがす力は、外からの物理的な力としても、内面に位置を占める精神の力としても、けっして小さいものはない。小さくない力がたえず押しよせる状況のなかで穏やかな幸福を保つには、外からの物理的な力にたいしても内面の精神的な力にたいしても、それとは別種の力をもって抵抗せざるをえない。抵抗なくして幸福の成立も持続も望めない。

だが、抵抗の姿勢はなにほどかの努力や緊張や忍耐を

D

せざるをえない。そして、抵抗の

D

する努

力や緊張や忍耐は、度が過ぎれば幸福とは相容れない境地へと人びとを拉し去る。抵抗の激しさが幸福の土壌たる穏やかで安らかな境地を壊してしまう。幸福を手放すまいとする抵抗には、幸福の基調たる日常的な落ち着きやゆとりが備わっていないなければならない。

E

でなければならない。

(中略)

幸福論にとって大切なのは、身近な日常を超えた問題を考えることが幸福論とは類を異にするという認識を ^a ケンジ _{~~~~~} することだ。幸福論の守備範囲というのはそこるところをいう。外からどんなに深刻な問題がやってこようと、幸福の大切さ、幸福論の大切さは守られねばならない。外から大きな問題がやってきて身近で穏やかな幸福を押しつぶそうとするときにこそ、かえって幸福論の真価が問われるといつてよい。外からくる問題の大きさが

F

、それがなにより求められる。

大きな問題を論じるときと身近な幸福を論じるときとは、論のリズムとテンポと音量が異なってくるのは、どちらの論にとつても

G

ことだ。政治・経済・文化の領域では、問題が大きくなればなるほど視野を広く取る必要が

感じられはする。とはいえ、広い視野が問題解決にシ^bするとは限らず、それとは別に、日々のしあわせといった小さな視点の設定が必要だと感じられることが少なくない。その一方、幸福論についても、外からやってくる幸福の約束や保証の頼りのなさを見るにつけ、身近な世界で自分たちの力でどうにか作り出せる実質的な幸福の実相を冷静に見つめ、それを穏やかに追求する必要がかえって強く実感される。進歩をよしとする近代の政治・経済・文化の地球大の動向が、必ずしも人びとの身近な暮らしを、安定したゆたかなものにするとは限らないこと、——それこそが二〇世紀、二一世紀の大小さまざまな経験からわたしたちが学んだことだ。

（長谷川宏『幸福とは何か』より一部改変）

問1 波線部 a「ケンジ」について、「ケン」と同じ部首の漢字を用いるものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 土地を入念にカイコンする。
- ② 各地方のミンヨウを調査する。
- ③ 血液のジュンカンを研究する。
- ④ 親戚のイサンを相続する。
- ⑤ 芸術家がイギヨウを達成する。

問2 波線部「シする」について、「シ」と同じ部首の漢字を用いるものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 色彩のノウタンについて話し合う。
- ② 中学校のキョウユに相談する。
- ③ 文化のヘンセンについて勉強する。
- ④ 会社のドウリョウと仲良くする。
- ⑤ 他国とのポウエキで黒字を出す。

問3 空欄

A

に入る最もふさわしいものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 個人と集団との協調を注視する
- ② 幸福と平穏さを同一視する
- ③ 効率と迅速を求め
- ④ 緊張と労苦を本能的に渴望する
- ⑤ 努力と進歩から無意識的に逃避する

問4 空欄

B

に入る最もふさわしいものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 効率と速度から目をそらせば
- ② 努力と忍耐が度を越せば
- ③ 幸福と平穏さが平凡なものになれば
- ④ 穏やかさや安らかさが利己的なものになれば
- ⑤ 個人と集団が歩を乱せば

問5 空欄

C

に入る最もふさわしいものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 掘りくずそうとする
- ② 蒸し返そうとする
- ③ 発見しようとする
- ④ 相対化しようとする
- ⑤ 目ざめさせようとする

問6

空欄

D

に入る最もふさわしいものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 忘却
- ② 失笑
- ③ 内包
- ④ 具象化
- ⑤ 相対化

問7

空欄

E

に入る最もふさわしいものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 抵抗そのものが穏やか
- ② 努力そのものが偉大
- ③ 幸福そのものが論理的
- ④ 日常そのものが道徳的
- ⑤ 幸福を揺るがす力が小さなもの

問8

空欄

F

に入る最もふさわしいものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 幸福論を相対化することへの忠誠心
- ② 幸福論を敵対視することへの信仰心
- ③ 幸福論の価値を下げることにへの忠誠心
- ④ 幸福論を激しいものにするにへの警戒心
- ⑤ 幸福論を絶対視することへの信仰心

問9

空欄

G

に入る最もふさわしいものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 何の利益ももたらさない
- ② 抽象化をもたらしてしまふ
- ③ 恣意的になつてしまふ
- ④ 感情論に陥つてしまふ
- ⑤ むしろ歓迎すべき